

特集 3

G7 広島サミットにおける消防
特別警戒等

令和5年5月19日から21日まで広島市の「グランドプリンスホテル広島」を主会場として、G7広島サミットが開催された。当該サミットは、G7メンバーのほか招待国、国際機関及びゲスト国が参加した国際会議であった。

消防としてもサミットの円滑な運営と会議参加者の安全を確保するため、関係施設への火災予防対策やテロ災害を含めた各種災害発生時の即応体制を万全のものとし、消防責任を果たす必要があった。

1

サミット開催までの取組

令和4年7月15日の閣議了解により、広島市でのサミット開催が決定された後、サミットの開催準備に関し、政府全体の総合調整を図るため、内閣官房副長官を議長とする「G7広島サミット準備会議」が開催され、消防庁次長が構成員として参画した。

また、準備会議の下に、「G7広島サミット準備会議幹事会」及び「G7広島サミット準備会議セキュリティ対策部会」が設置され、それぞれ消防庁次長が構成員として参画した。これらの会議において、関係府省庁のサミットへ向けた取組状況を共有するとともに、サミットにおける消防・救急体制の構築を含むセキュリティ基本方針の決定等がなされた。

一方、サミット期間中における警防計画（火災、救急、救助活動に係る計画）、予防計画（事前査察、訓練指導、期間中の予防警戒活動に係る計画）等、具体的な消防・救急特別警戒体制を検討するため、令和4年10月28日、消防庁、広島県、関係消防本部及び全国消防長会で構成された「G7広島サミット消防・救急対策委員会」（委員長：消防庁次長）を設置するとともに、警防・予防対策をそれぞれ専門的に検討するための「警防部会」及び「予防部会」を設置し、サミットに向けた検討体制を整えた。

これら委員会等における審議を経て、警防計画及び予防計画を策定するとともに、NBC 災害対応訓練や現地視察、首脳会議場・要人宿泊施設等の関連施設（207施設）に対する立入検査・自衛消防訓練指導等を実施した。

また、令和5年2月13日には、関係消防本部33本部による「G7広島サミット消防・救急体制整備に関する応援協定」が締結された。



NBC 災害対応訓練

消防特別警戒の実施に先立ち、サミット警戒に携わる消防隊員に対し、任務を伝達し、隊員の士気高揚を図るため、令和5年5月16日には、広島市南区にある「W the Bride's Suite」に消防職員約150人が集結し、「任務伝達式」が行われた。式の中では、消防庁長官をはじめ、広島県知事、広島市長及び全国消防長会会長から激励が行われた。



任務伝達式①



任務伝達式②

2

消防特別警戒の体制等

(1) 実施期間

G7広島サミットは令和5年5月19日から21日までであったが、警戒活動の準備期間及び各国の首脳等を含めた要人の動向を考慮し、5月16日から22日までの7日間を警戒期間とした。

(2) 参加機関

テロ災害が発生している近年の社会情勢や、都市部におけるサミット開催という特性も踏まえ、広島県、広島県内13消防本部、他都府県20消防本部による車両179台、消防防災ヘリコプター6機、消防艇4艇、予防関係車両8台、消防職員等1,777人（警防要員1,296人、予防要員84人、本部要員397人）の消防・救急特別警戒体制を構築した。

(3) 警戒体制

G7広島サミットにおいては、次のような消防特別警戒を実施した。

ア 統括警戒本部・消防庁警戒本部

広島市消防局長を本部長として、広島市消防局内に統括警戒本部を設置し、作戦班、指令班、情報班、庶務班、予防班等を設置するとともに、首脳等要人の動向や関連行事の進行状況に応じて警戒部隊等の運用・調整を行う作戦室を設置し意思決定を行った。

さらに、統括警戒本部と連携を図るため、消防庁消防・救急課長を本部長として、広島市消防局内に消防庁警戒本部を設置した。

なお、定例会議等の模様は、テレビ会議システム等を活用し、関係各所に情報共有できる体制を構築した。

また、消防研究センター保有の機動鑑識車を統括警戒本部に配備し、サミット関連施設等における火災発生時の原因調査、鑑識体制の強化を図った。



統括警戒本部定例会議

イ 現地警戒本部等

統括警戒本部指揮のもと、首脳会議場であるグランドプリンスホテル広島及び首脳等要人が利用する航空機が離発着する広島空港に現地警戒本部を設置するとともに、海上付近におけるサミット開催という特性も踏まえ、広島市消防局南消防署水上出張所、廿日市市消防本部宮島消防署に警戒部隊の進駐警戒拠点を設置し、それぞれにNBC災害発生時に対応する部隊を配備した。

また、首脳等宿泊施設における進駐警戒や要人等の移動経路となる高速道路警戒、消防防災ヘリコプターによる航空警戒、消防艇による海上警戒も実施し、万全の体制を確保した。

部隊を配置し、予防警戒要員や随時立入検査隊を支援する体制を構築した。



広島空港現地警戒本部



予防警戒要員による立入検査



広島市消防局南消防署水上出張所
進駐警戒拠点



消防防災ヘリコプターによる航空警戒

ウ 予防警戒

サミット関連施設の火災予防、災害発生時の初動対応等を任務とする予防警戒要員を 24 時間体制で配置するとともに、首脳等要人の動向やサミット関連行事に合わせ、関連施設に対し立入検査を実施する随時立入検査隊を配置した。

また、現に予防・危険物業務に従事している指定都市関係消防本部の職員によって編成する予防特命

特集3-1 図 消防・救急特別警戒体制

G7広島サミット期間中における消防・救急特別警戒体制

■ 警戒体制

参加機関：広島県、広島県内13消防本部、広島県外20消防本部
 人員：180隊1,777人
 車両等：車両179台（消防車152台、救急車27台）、消防防災ヘリコプター6機、消防艇4艇、予防関係車両8台

統括警戒本部 (広島市消防局)	特別警戒本部	情報収集及び統括警戒本部への各種報告、警戒消防部隊の管理等
	現地警戒本部 (首脳会議場)	首脳会議場(グランドプリンスホテル広島)及び周辺地域のNBC災害及び初動対応等
	現地警戒本部 (広島空港)	広島空港及び周辺地域のNBC災害及び初動対応等
	進駐警戒拠点 (市内警戒隊)	広島市消防局管内及び周辺地域のNBC災害対応等
	進駐警戒拠点 (機動警戒隊)	要人訪問施設等への移動配備及び初動対応等
	高速道路路点	高速道路(要人等移動経路)上の災害対応等(広島市内は常備消防力で対応)
	要人宿泊施設 警戒進駐所	要人宿泊施設におけるあらゆる災害の初動対応等
	海上警戒拠点	船舶での移動など、要人等の動向に応じた情報収集及び救急・救助対応等
	航空警戒拠点	情報収集及び救急・救助対応等
要人主要行事等 警戒場所	要人主要行事におけるあらゆる災害の初動対応等	

3

警戒部隊の活動

(1) 火災等

警戒期間を通じ火災は発生しなかったが、要人が宿泊するホテル付近の共同住宅において自動火災報知設備の鳴動により消防隊1隊が出動したほか、不審物と疑われるものが放置されている事案が7件あり消防機動隊等が7隊出動し警戒活動を実施した。

(2) 救急

サミットに係る救急出動件数は8件あり、各事案に対しては、事前計画に基づき医療関係者等と緊密に連携しながら対応した。

(3) 予防

警戒期間中、グランドプリンスホテル広島内の立入検査を2回、広島空港における要人離発着前の立入検査を29回、首脳等要人の動向等に合わせた関連施設に対する随時立入検査を10施設17回実施した。

4

総括

今回開催されたG7広島サミットにおける消防特別警戒では、過去のサミット警戒で統括警戒本部のもとに置かれていた消防庁の警戒体制を、消防・救急課長を本部長とする「消防庁警戒本部」として独立して設置し、政府関係各機関との連絡調整に当たった。このことにより、統括警戒本部との役割分担が明確化され、スムーズな警戒活動を実施することができた。

今回の警戒活動で得た経験を糧に、今後開催が予定されている2025年日本国際博覧会(大阪・関西万博)などの大規模イベントにおける消防・救急特別警戒体制の構築を通じ、安全・安心の確保に万全を期すこととしている。